

## がん検診を受診される皆様へ（お知らせ）

わが国では、がん、心臓病、脳卒中などのいわゆる「三大生活習慣病」が死因の半数以上を占めており、特に、死因の1位である『がん』には、日本人の2人に1人がかかり、3人に1人はがんで亡くなると言われています。がん死亡数の上位は、**肺がん（第1位）、大腸がん（第2位）、胃がん（第3位）、乳がん**は女性のがん死亡数**第4位**となっています。女性のがん罹患率は、**乳がん（第1位）、子宮頸がん（第5位）**で**近年増加傾向**にあります。（がん死亡数は2021年、がん罹患率は2019年の厚生労働省統計を引用）

### 【がん検診の目的と実施するための主な条件】

がん検診の目的は、症状のない人からがんを早期に発見し、適切な治療を行うことで、がん検診を受けた**集団におけるがん死亡率を減少**させることです。

これまでの研究によって胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの5つのがんは、それぞれ以下の方法で行う検診を受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。当センターが実施するがん検診は、科学的根拠に基づきその**有効性が認められ**、厚生労働省が指針で定めた検診です。（表1）

**検診効果のある方法を定期的**に受診することが大切です。なお、がん検診は症状のない方を対象としているので、**自覚症状がある場合は、医療機関を受診**してください。

（表1） 厚生労働省が指針で定めたがん検診

検診の種類	効果のある検診方法	対象者	受診間隔
胃がん	問診、胃内視鏡検査又は胃部Iックス線検査	50歳以上（胃部Iックス線検査は、40歳以上に対して実施可能）	2年に1回（胃部Iックス線検査は、年1回実施可能）
大腸がん	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回
肺がん	問診（質問）、胸部Iックス線検査及び高危険群に対する喀痰細胞診検査		
乳がん	問診（質問）及び乳房Iックス線検査（マンモ）	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部細胞診	20歳以上	

### 【がん検診の利益と不利益】（表2）

厚生労働省が推奨するがん検診は、検診効果が証明されていますが、一方で検診を受けることによる不利益もあります。検診を受診する際には、不利益があることを十分に理解し、受けていただく必要があります。

（表2） 主ながん検診の利益と不利益

検診の利益	検診の不利益
<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 検診を受けた場合は、受けない場合に比べ、がんによる<b>死亡率が減少</b>します。（救命の効果があります。）</li><li>◎ 早期発見、早期治療によって、治療にかかる<b>身体的負担の軽減</b>や<b>医療費（経済的負担）の軽減</b>につながります。</li><li>◎ 公的資金の補助があるため、<b>検診料金の自己負担が軽減</b>されます。</li><li>◎ 早期がんに加えて、<b>がんになる前段階の病変も発見</b>され、<b>がんになることを防ぐ</b>ことができます。（大腸がん及び子宮頸がん）</li><li>◎ 検診で「異常なし」と判定されれば、ひとまず安心して生活を過ごすことができます。ただし「過信」は禁物です。定期的な検診の受診を欠かさないでください。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 検診の判定・診断の結果が100%正しいとは言うわけではありません。</li><li>□ 身体への負担や、かかる費用・時間に加え、<b>偽陰性、偽陽性、過剰診断</b>などが起こる可能性があります。<ul style="list-style-type: none"><li>・「偽陰性」⇒「がんがある」にもかかわらず、陰性になること。（がんの存在する場所や大きさによっては、発見できないことがあります。）</li><li>・「偽陽性」⇒「がんがない」にもかかわらず、陽性になること。</li><li>・「過剰診断」⇒生命状態に影響せず、その後、進行がんにならないがんを診断すること。（偽陽性及び過剰診断は、結果的に不必要な治療や検査が行われることとなります。）</li></ul></li></ul>

### 【がん検診の精密検査】（表3）

がん検診の結果「**要精検**」になった場合は、結果通知に同封されている「紹介状」を持って**必ず精密検査を受ける**必要があります。精密検査や治療を受けない場合、**がん検診の効果はなくなります**。なお、精密検査の結果は、個人の同意がなくても、**市町村や検診実施機関等**に報告されます。（個人情報保護法の例外事項として認められています。）

（表3） 部位別がん検診の精密検査

検診の種類	精密検査の方法	検査の概要
胃がん	<b>胃内視鏡検査</b> （検診が胃部Iックス線の場合）	口または鼻から先端にカメラの付いた管を挿入し、直接胃の中を観察します。
	<b>生検又は胃内視鏡検査の再検査</b> （検診が胃内視鏡検査の場合）	胃内視鏡の際に、病変が疑われる部位から組織を一部採取（ <b>生検</b> ）して、病理組織検査を行います。

検診の種類	精密検査の方法	検査の概要
大腸がん	全大腸内視鏡検査	直腸から盲腸までの大腸全部位を内視鏡 <sup>カマ</sup> で観察します。
	S状結腸内視鏡検査+注腸 <sup>エックス線</sup> 検査 (全大腸内視鏡検査が困難な場合)	肛門から <sup>チューブ</sup> を挿入して <sup>バリウム</sup> (造影剤)と空気を注入し、大腸全部位の <sup>エックス線</sup> 写真を撮影します。この検査では、がんの発生しやすい直腸やS状結腸が見えにくくなるため、S状結腸内視鏡検査を併用します。
肺がん	CT検査、気管支鏡検査など	<b>CT検査</b> : 病変が疑われる部位に <sup>エックス線</sup> を使用して、身体断面を撮影し詳しく調べます。 <b>気管支鏡検査</b> : 口または鼻から先端に <sup>カマ</sup> の付いた細い管を気管や気管支の中に挿入し観察します。
乳がん	乳房 <sup>エックス線</sup> 検査 ( <sup>マンモグラフィ</sup> )、超音波検査、穿刺吸引細胞診、針生検など	<b>乳房<sup>エックス線</sup>検査(<sup>マンモグラフィ</sup>)</b> : 病変が疑われる部位を詳しく観察するため、多方向から追加撮影します。 <b>超音波検査</b> : 病変が疑われる部位に超音波をあて、乳房の状態を詳しく観察します。 <b>穿刺吸引細胞診</b> : 乳房内に「しこり」などがある場合、細い注射針を刺して「しこり」内の細胞を採取して調べます。 <b>針生検</b> : 太い針を刺して、病変が疑われる部位から組織の一部を採取して、病理組織検査を行います。
子宮頸がん	コルポスコピー検査、組織診(生検)など	<b>コルポスコピー検査</b> : 膣拡大鏡(コルポスコプ)を用いて、子宮頸部の粘膜表面を詳細に観察します。 <b>組織診(生検)</b> : コルポスコピー検査と同時に、病変が疑われる部位から組織の一部を採取して、病理組織検査を行います。

**(精密検査における注意事項)**

大腸がん検診での便潜血検査の再検査、肺がん検診(喀痰細胞診)要精検者に対する喀痰細胞診の再検査、及び子宮頸がん検診でASC-USを除く要精検者に対して細胞診のみの再検査は、不適切な精密検査として精検未受診となります。

**【禁煙のすすめとがん予防】**



たばこの煙には、多くの発がん物質が含まれており、肺がんをはじめ、多くのがんにかかる危険性を高めることが明らかになっています。がんにかかる危険性を減らすための工夫として、たばこを吸わない、他人のたばこの煙をできるだけ避ける、バランスのとれた食事をする、適度な運動をする、定期的に健康診断を受けるなどがあります。

**(主な参考文献)**

- ・ 国立がんセンター : 科学的根拠に基づくがん検診推進のページ
- ・ 厚生労働省 : 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」
- ・ 国立がんセンター : がん情報サービスホームページ
- ・ 厚生労働省 : 地域がん登録全国推計によるがん罹患データ及び人口動態統計によるがん死亡データ

応援します！あなたの健康

〒870-0011 大分市大字駄原2892-1 (春日浦)

公益財団法人

**大分県地域保健支援センター**

(結核予防会大分県支部・日本対がん協会大分県支部)

**☎097-532-2167**

<http://www.oita-sienc.jp/>

